



「堂崎っ子の心を見つめる教育週間」校長講話（6月24日）より（抜粋）

保護者・地域の皆様には、「堂崎っ子の心を見つめる教育週間」へ多数参観いただきありがとうございます。以下、校長講話の内容を紹介いたします。

「おはようございます」と挨拶すれば「おはようございます」「よろしくお願いします。」と言えば「よろしくお願いします。」と返ってくる。それだけで気持ちがよくなる。人は誰でも気持ちが腹立たしくなったり、落ち込んだりすることがある。周りの人には言えず、一人で悩む人もいます。気持ちが元気でないと、心が安定せず、自分のもっている力を発揮できない。知らず知らずのうちに、人のせいにしたがる。反対に、気持ちが安定していると、自分の力を発揮しやすく、運動や勉強の結果が出しやすい。

ところで、このように当たり前に生活していることがどれほど幸せなことか、人は自分が災害や事故にあったとき、初めて気が付く。そして「命」というものについて、改めて考える。

腰塚勇人さんは、37歳の頃、事故で首の骨を折った。奇跡的に命を取り留めたが、下半身と右半身の麻痺し、生きる希望を失った。

しかし、大きな障害を抱えながらも、4ヶ月で復帰した。そうなれたのは、自分の考え方・受け取り方を変えたからだそうだ。生かされた命を自分のために人のために使いたい。命の大切さ、仲間の大切さ、生きることの素晴らしさを伝えたい。自分を支えてくれている人たちに感謝しようと思い、学校に復帰するとき、「5つの誓い」を決めた。

【（ ）内は、末吉自身が付け加えた内容】

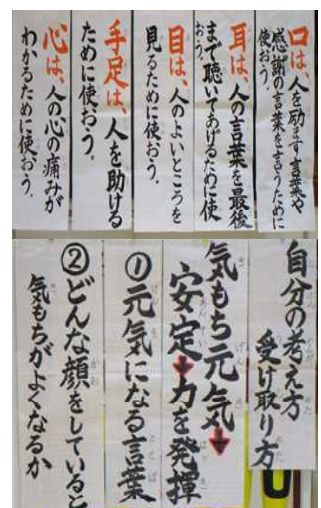
- 1、「口」は……（悪口を言うためのものではなく、）人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
- 2、「耳」は……（都合の良いことだけ聞くのではなく、）人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。
- 3、「目」は……人のよいところを見るために使おう。（人の悪い部分・欠点を見付けるためのものではない。）
- 4、「手足」は……人を助けるために使おう。（人をたたいたり、けったりするために使うものではない。）
- 5、「心」は……人の心の痛みがわかるために使おう。

（心の痛みが分かると、友達も大切に、何よりも自分を大切にできる。）

この教育週間の時だけでなく、常に考えてほしい。そして、口、耳、目、手足、心をどのように使うか、つまり行動に表すか、自分でできることから取り組み、当たり前のこととしてのよき習慣につなげてほしい。

自分の気持ちを元気にするために、「自分の気持ちについて意識すること」が大切である。

- ①自分が、元気になる「言葉」を見付けておく。
- ②自分がどんな顔をしていると相手が「気持ちがよくなるか」鏡でたしかめてみる。



島原特別支援学校児童と堂崎小学校3年生との交流学習 6月19日(水)

特別支援学へ通っている児童が居住する地域の学校の児童との活動をとおして、協力や共同活動を楽しむ交流会を行いました。

来校したのは、 さんです。少し恥ずかしがり屋の さんでしたが、昨年も交流学習を行っており、子供たちや先生方と出会った瞬間、満面の笑顔となりました。リズム遊びや楽器演奏、ボール遊び、ダンスおに等を通して、仲良く活動する様子が伺えました。

2学期も予定されており、交流給食や昼休みも一緒に過ごせたらと、お母様も話されていました。



授業参観、学級部会から【6月28日(金)】

4月に続き、子供たちの授業の様子を見ていただきました。4月と比べ、子供たちはどのように成長しているように感じられたでしょうか。今回は、「心を見つめる教育週間」として、「命」等をテーマにした道徳の授業や「SNSノート・ながさき」を活用した情報モラル授業を実施しました。

学級部会では、学級部長さんを始め、役員の皆さんで進めていただきました。夏休みを迎えるに当たり、学級担任からのお願いもあったことと思います。話し合いをしたり、実際の学級PTA活動を行ったりすることで、メンバーは同じでも、新しい発見があったり、お互いを理解し合ったりできるのではないかと思います。また、PTA活動は、子供との関わる私たち大人の幸せへとつながるものではないでしょうか。



図書支援員の吉村先生にお世話になっています。

南島原市では、「本でつながる学校と図書館連携事業」として学校図書館に図書館司書を派遣していただき、子供の読書活動の推進を図っています。図書支援員として、毎週木曜日、西有家図書館より 吉村 友伸 先生が来校され、図書館の整理や本の修理、読み聞かせ、環境整備、図書の貸し出し作業などをしてくださっています。

